



No.63 2020.7.8

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

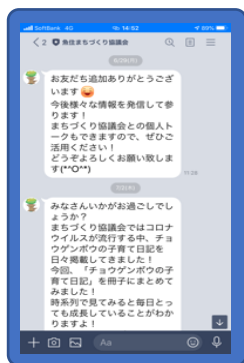
いろいろな人たちが

7月4日の毎日新聞でコミュニティ創造協会さんが開催されている「オンライン会議の体験講座」が紹介されていました。4月にスタートした「オンライン会議の体験講座」に参加された方も相当な人数になっているのではと思います。私自身、今、校長先生や教頭先生向けのオンライン会議の体験会をなんとか開催できるようになったのも、この体験講座のおかげです。「外国人の子どもの学習支援など動機は十人十色」と記事にもあるように、始めてこの講座に参加した時、参加されている方の年齢層だけでなく、活用目的も多様なのにはびっくりしたのを覚えています。こうした継続した取組が少しずつ根を張り、オンラインでの対話の場が広がっていているんだろうなと思います。コミュニティ・スクールでも学校と保護者と地域の方が子どもを真ん中においてこれからの地域、子どもたちの未来に向けてオンラインを活用してミニ対話ができるようになればいいなと思っています。そのためには学校でもまだ環境等は十分ではありませんが、オンラインでの会議が可能になった今、まず学校間でどんどん使っていけないのではと感じます。学校の外では様々な年齢層の方が自分の活用目的に向け動いておられます。



(写真参照：毎日新聞より)

SNS の活用も



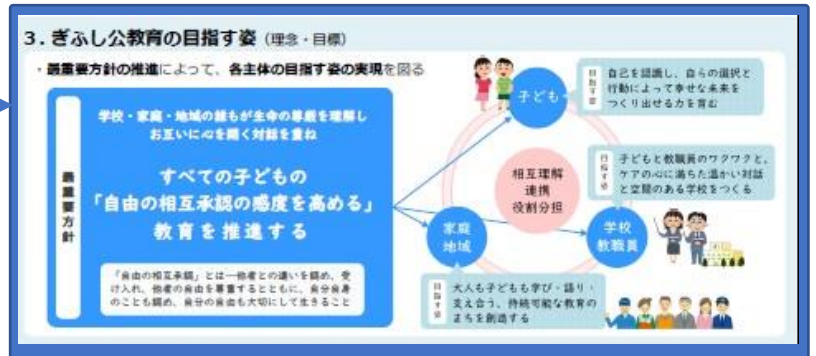
「コミコミスクスク NO.61」で紹介させていただいた魚住まちづくり協議会さんの「自治会長お助け Book」に LINE の QR コードがのっていました。コミュニティ創造協会さんのスタッフさんから「今まちづくり協議会さんの中で LINE@をまちづくりの広報のツールとして使い始めている」というのを聞いていたので、「これか」と思い QR コードを読み込むと魚住まちづくり協議会さんの「公式 LINE」につながりました。私が友達登録した後、魚住まちづくり

協議会さんから「チョウゲンボウ子育て日記」が冊子になったとの情報が入ってきました。こうした形での情報の発信の仕方もこれからの時代は必要なんだろうなと感じました。私は先入観で LINE は「怖い」といったイメージがあり、連絡の手段として使っていても、道具として活用するプラス思考がはたかなかつたんだろうなと思いました。今回のコロナ禍で学校側からの情報発信はホームページが中心でしたが、情報発信の手段は様々な災害への備えとしても、人と人とを結ぶ手段としていろいろなチャンネルを確保しておくためにも、今後にも備えこうした LINE@等 SNS の活用も考えていく必要があるんだろうなと考えます。

岐阜市では「岐阜市公教育検討会議」答申ができました

岐阜市ではこれまで9回の「岐阜市公教育検討会議」が開かれ、「岐阜市の子どもたちの未来に向けて公教育に関する提言」の答申が7月3日に出されました。昨年の7月のある悲しい出来事を見つめ直し「すべての子どもたちが未来に希望を持てる学び・成長の場づくり」をめざしていくというものです。第1回からの記録がすべて公開されていますので一度ご覧になっていただけたらと思います。【検索：岐阜市公教育検討会議】(<https://www.city.gifu.lg.jp/36509.htm>)

提言概要より



4. ぎふし公教育の未来戦略 (具体施策)

3つの柱	施策の方向性	施策の概要	共通課題 対話型「ユニケーション」・ICT・コーディネーター
①. 子どもの学びの機会拡大	(1) 生命や人間関係を深く学ぶ	「自由の相互承認の態度を高める」教育実現の核となる市独自の教育プログラムを開発・実施	
	(2) 探究を核としたカリキュラム	探究(プロジェクト)型の学びを核としたカリキュラム構成の試行・実施(モデルカリキュラムの構築)	
	(3) 学校形態・学び方の多様化	義務教育学校や、民間の教育機関と連携した公的な学校のあり方など、多様な学校形態・学びのあり方を検討	
②. 教職員の学校業務改革	(1) 各校の業務の見える化・改善	各校の多忙状況を可視化し、対話を通じた改善策の実施 担任制のあり方検討、職場の環境改善(ハードなど)	
	(2) 各校に共通する課題の解決	部活動、土曜授業、研修校など各校に共通する課題の解決 子どもと教職員に関わる対話ツールやICT環境の整備	
	(3) 教職員の人材育成、組織再編	人材開発等の専門家の知見を活用した教職員研修の再構築 学校を支え、課題解決を牽引する組織に教育委員会を再編	
③. 家庭・地域の教育力の向上	(1) コミュニティ・スクールの強化	CSを介し家庭・地域が学校業務の支援、チェックを実施 教育委員会と市民協働部門が連携し、CSの機能向上へ	
	(2) サードプレイスの充実	子どもと教職員の地域における探究の拠点であり、学校以外が担う福祉的機能としての子どもの居場所の充実	
	(3) 教育を基盤としたまちづくりの創造	多様な学校形態の検討や、サードプレイスの充実を含め、教育を基盤とした持続可能なまちづくり構想の策定を検討	

岐阜の提言は学習指導要領でめざす Society5.0 の「学びの時代」の教育のあり方を見える化したように思えます。こうした教育を実現させるためには学校・家庭・地域が目指すゴールを共有し、協働する必要があります。岐阜では提言を周知するための説明会ではなく、学校・家庭・地域が同じゴールを共有し、協働して動きはじめるための、子どもを真ん中においた子どもたちの未来に向けての対話がスタートするんだろうなと思います。(文責：北本)